

令和4年度第5回審査会までの質問と回答(大江川下流部公有水面埋立て)

	質問、意見の概要	審査会での事務局の回答	事業者の補足説明
1	資料 袋の耐用年数について、埋めることで紫外線の影響を受けないことから半永久的というご説明でしたが、その根拠となるようなデータをお示ししていただきたい。	事業者を確認させていただきます。	「袋詰脱水処理工法による高含水比ダイオキシン類汚染底質・土壌封じ込めマニュアル(案)」(平成15年7月 独立行政法人土木研究所)に、袋材は (1) ジオテキスタイル製で、軟弱地盤箇所における施工性向上のためにも使用されるような強度を有している (2) 主成分はポリエステルやポリプロピレンで、化学的安定性が高く、酸、アルカリ、水等による劣化は極めて少ないとされています。 しかし、紫外線対策を十分に行うことが必要であると同マニュアルにも記載されており、汚染土充填を速やかに行う・シート等で遮蔽する、埋戻し時には十分な覆土を行うなど紫外線対策を十分に講ずるなど、同マニュアルに従い適切な施工を行います。
2	モニタリングについて計12年間行うとのことでしたが、やはり工事が終わった後もかなりの長期にわたって必要かと思えます。有害物質が漏れだしていかないかというのは工事中よりも工事後が大事になるかと思えます。 モニタリング計画を今後検討するとのことご回答でしたが、事前に示していただければと思います。	現状では、工事前、工事中10年間及び工事後の計12年間のモニタリングを基本と考えているのですが、事業者としてどこまで考えているのか確認させていただきます。	今回一番懸念すべき事項である地下水のモニタリングにつきましては、環境省の「区域内措置優良化ガイドブック」に準じて、工事中は年4回、工事完了後も年4回を最低2年間行いその結果をもって、さらなるモニタリングの必要性について判断する予定です。

	質問、意見の概要	審査会での事務局の回答	事業者の補足説明
3	袋詰め脱水処理工法でデータ上は添加剤有の方が袋の中に有害物質が残っているという結果になっています。今回の工事では添加剤を加えるのか教えてください。	事業者を確認させていただきます。	今回、添加物を加えることは現時点においては検討しておりませんが、最初の脱水時の検査などにおいて、想定の効果を得られなかった場合などには検討したいと考えております。
4	資料 袋を1,2段積み上げて転圧していくことですが、どのタイミングで積み上げていくのか。袋の中の水分量がこの程度になったら積み上げるといった計画なのかを教えてください。	ある程度水分が抜けたら積み上げていくことになるかと思いますが、転圧すればさらに排水は進むことになるかと思いますが。その排水についても有害物質排水処理施設で処理することになるのかと合わせて事業者を確認させていただきます。	最初の脱水処理の際に、何日間ほどの程度の強度になるのかを確認し、それ以降はその期間を目安に埋戻しに使用していく予定です。 確認する項目としては、積み重ね時の安定性として粘着力を、つり上げ等の安定性としてコーン貫入抵抗を確認する予定です。
5	植物 アキノミチヤナギについて、事業による影響はあると予測されるが、周辺に生育情報があり、確認個体数も多くないことから、名古屋港湾における地域個体群に及ぼす影響は小さいものと予測されています。 しかし、準備書339ページで大江川以外の名古屋市内における生育情報の確実な資料はないとされており、市内には本事業予定地にしか生息していないのではないかと危惧しております。 河川左右岸道路などの埋立てを行わない地点に生育しているのか教えていただきたいのと、保全を行うことについても検討していただきたいと思っております。	生育情報に関する資料や埋立てを行わない場所に生息しているか等、事業者を確認させていただきます。 また、名古屋市内のものが絶滅してしまう可能性がある場合、どのような対応が可能か、事業者を確認させていただきます。	アキノミチヤナギの名古屋市内の生育情報は、「レッドデータブックなごや2015植物編」では大江川のみ(庄内川河口でも生育可能性)と記載されていますが、名古屋市生物多様性センターを介して学識者に確認したところ(2022年4月)、「他エリアにそこそこ生育しているため、移植するなどの特別な配慮は必要ない。」との見解を頂きました。 なお、アキノミチヤナギの現地調査確認地点は、全地点ともに埋立てを行う河川内です。

	質問、意見の概要	審査会での事務局の回答	事業者の補足説明
6	<p>準備書 398 ページで、工事中にニホンウナギが移動するから問題ないと記載されておりますが、ウナギは泳ぐのが上手ではなく工事が始まってすぐに移動できるわけではないと思います。このような生物について、移動できるから大丈夫という評価は問題ないのでしょうか。</p>	<p>今回の工事計画では、河川全体を一度に埋立てるのではなく、まず左岸側から埋立て、右岸側は河川が残った状態になります。</p> <p>そのため埋立てが開始されても右岸側で上流下流に移動できるのではないかとということで、準備書では予測結果等に反映されております。</p>	—
7	<p>動物</p> <p>上流側・下流側どちらから工事を開始するかで状況が変わるかと思えます。下流側から工事を開始すると上流側に逃げてしまいますので、できたら上流側から工事を進めていただきたいと思えます。その辺り、魚類関係の専門家に相談して生物の生息域を残しつつ工事を進めることができる工事計画を作成していただければと思えます。</p>	<p>現段階でもある程度工事計画を検討しているかと思えます。動植物等に配慮した工事計画とすることも、環境配慮の一環だと思えますので、事業者に伝えさせていただきたいと思えます。</p>	<p>現時点におきましても、基本的には上流側からの施工を考えております。</p> <p>今回のご意見も踏まえながら引き続き工事計画を作成してまいります。</p>
8	<p>準備書 371 ページのテナガエビとシラタエビの手の長さが同じように見えるのですが、これは専門家の方がしっかりと判別しているのでしょうか。</p>	<p>専門家がしっかりと判別し、種数・個体数を計測していると思えます。</p>	<p>専門家が判別しております。なお、テナガエビの手の長さは、成体のオスは長いですが、若いオスやメスの手は普通の長さです。</p>

	質問、意見の概要	審査会での事務局の回答	事業者の補足説明
9	<p>生態系</p> <p>今回の準備書のまとめ方として、周辺にも生息状況があるため影響は小さい、ヨシ群落では二次的な植生なので名古屋港湾に及ぼす影響は小さいとされていますが、現状名古屋港湾では色々な場所で埋立が行われています。一つ一つの事業規模は小さいので影響は小さいとして次の事業を進めると、どこにも動植物の居場所がなくなってしまう。また二次的な場所だからといっても、動植物はそのような場所でも安定していれば生息しています。このような二次的だからといってなくしてしまうと動植物が戻ってくる場所もなくなってしまうので、汽水域の動植物が危機的な状況にあると思っています。</p> <p>一つ一つの事業ではなく、名古屋港湾全体を長期的な視点で考えていく必要があると思います。幸いにも名古屋市には、生物多様性センターという組織がありますので、是非連携を図っていただき、現状の名古屋港湾の汽水域がどのようになっているのか、今後どのように変化していくのかについて、情報交換を進めていただきたいと思っています。</p>	<p>累積的影響を考慮してほしいといったご意見かと思えます。累積的影響をどのように評価していくのか、どのように取り扱っていくのかは本市アセス制度の課題であると考えております。</p> <p>ただ、名古屋港全体の港湾計画を定めていく中で、全体を見通した環境配慮について検討を行っているとも聞いております。</p> <p>先程の生物多様性センターとの連携に取り組み、今後の港湾計画に反映していただきたいとのご意見につきましては、事業者には伝えさせていただきま</p>	<p>今回の事業につきまして、生物多様性センターとの情報共有に努めてまいります。</p>

	質問、意見の概要	審査会での事務局の回答	事業者の補足説明
10	<p>調査を実施した休日よりも平日の利用者は少なくなると書かれております。利用目的が散歩やジョギング、犬の散歩等であれば平日と休日あまり変化はないと思いますが、どこから出した考えなのでしょうか。</p>	<p>事業者を確認させていただきます。</p>	<p>大江川左右岸道路の利用者は、大江川緑地から移動した人が多い結果が得られています。大江川緑地は公園機能を有しており、一般的に、利用者数は平日より休日の方が多いと考えました。このため、大江川左右岸道路の利用者についても、平日より休日の方が多いと考えました。</p>
11	<p>事業予定地近辺に保育園・幼稚園があると、平日の散歩で利用されることがあるかと思いますが、周辺に保育園・幼稚園があるのでしょうか。</p>	<p>準備書 105 ページに周辺の保育園・幼稚園の状況が記載されており、事業予定地より少し離れたところに立地しております。</p>	<p>事業予定地に最も近い神松保育園は、予定地東端までの最短直線距離が約 600m、大江川緑地を経由すると約 800m の位置関係になります。</p>
12	<p>埋立て後について、綺麗に整備されたりして歩きやすくなるなどあるのでしょうか。また、整備内容について、事前に住民の方に説明はあるのでしょうか。</p> <p>整備内容が決定されるのは埋立て工事中なのか、工事完了後なのか、どのタイミングでしょうか。</p>	<p>埋立て後は緑地を整備する計画と聞いておりますが、その整備内容については検討段階ということで、地元の方々の意見を聞きながら進めていくとも聞いております。</p> <p>整備内容の決定タイミングについては、事業者を確認させていただきます。</p>	<p>緑地の整備内容につきましては、埋立工事の進捗をみながら、並行して住民の方々の意見も伺い進めていく予定としております。</p>

○メール等でいただいた意見

	質問、意見の概要	審査会での事務局の回答	事業者の補足説明
13	水質・底質 <p>有害物質は専用の処理施設で適切に処理され、放流されるとのことですが、その排出量と排水中の有害物質濃度はどの程度を想定しているのでしょうか？排水基準は、環境中に放流後十分に希釈されることを前提に環境基準より高い値となっています。埋め立て末端部分から海域まで長さとしては長くないかもしれませんが、現状も河川流量は少なく、海域まで適当な流量が得られない場合は、排水後速やかに希釈されるよう排水を直接海域に放出するなどの検討は必要ないでしょうか。</p>	—	<p>有害物質排水処理施設で処理する水につきましては、汚染土壌が露出する作業時の降雨や作業に伴い発生する水を想定しており、濃度としては排水処理基準を満足する値を想定しております。</p> <p>なお、工事中も干満の影響を受けることや、周辺企業から工業用水が常時大江川に排水されていることなどから、本工事による排水は希釈されるものと想定しております。</p>